

問題4

入院時の看護 □□□

解法の要点

解説

基本事項

入院時オリエンテーションや入院準備について誤っているのはどれか。

1. 入院時の患者の名前を確認し、ネームバンドを装着させる
2. 患者が持参した内服薬の情報は不要である。
3. 入院オリエンテーションは、患者の理解が得られているか確認しながら行う。
4. 入退院調整室より患者の年齢・性別、疾患、治療予定、ADL状態などのあらゆる情報を得て、病室とベッドの位置を決定する。

II -9Bd

入院時の看護として、病院という慣れない場所で患者が安楽に過ごせるよう、また安全に治療を開始できるよう、患者を取り巻く環境を整える必要がある。入院の場面をイメージしつつ考えてみよう。

- 1 投薬など治療や検査時の患者確認をするといった**医療安全対策**としてネームバンドを装着する。
- ×2 継続治療中の疾患、薬剤が今後の治療に影響することがあるため、持参薬やお薬手帳を確認し、入院前まで継続されている治療や疾患について情報収集する。
- 3 看護師は、患者が治療や入院についてどう理解しているかを把握し、**患者の不安がなくなるように**説明する。また、患者からの質問にも丁寧に対応すべきである。
- 4 患者の年齢、性別や既往歴、ADL、疾患、入院目的（治療予定）などの、収集可能なあらゆる情報からアセスメントすることが重要である。その情報を元に、手洗いの近くがよいか、左右どちら側から乗り降りできるベッド位置にするのか、ナースステーションからの目の届きやすいほうがよいかなど病室、ベッド位置を検討する。

正解 2

●免疫不全患者の入院の場合、感染予防のため、果物や生花を含む生ものを病室に持ち込むことはできないと患者、家族に説明する。免疫不全の患者は、果物や生花といった生ものに付着している細菌が感染源となり、重大な感染症を引き起こしてしまう可能性があるからである。なお免疫不全患者は、食事も加熱滅菌処理をされたものだけに制限される。